

2015年度 松蔭中学校 高等学校 学校自己評価報告

松蔭中学校 松蔭高等学校

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2015年度学校自己評価」を報告するものです。

- ① 自己評価は次の13領域（部署）で実施した。
 - ・各学年団（中学1年～高校3年の6学年）
 - ・校務分掌各部（生徒部、教務部、総務部、宗教部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会）
- ② 評価法
 - ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定した。
 - ・年度末に、実践内容について評価した。
 - ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階とした。
- ③ 改善・向上策
 - ・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載した。

中学1年 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年目標「愛」という目標設定の理由を説明し、具体的に実践させる。	1. オリエンテーションキャンプ・学年集会・学年だより・各クラスでのHR等で取り上げ、実践を促すとともに、啓発活動を行った。 2. 学年の掲示板や教室に掲示し、常に意識できるよう心がけた。	B	学年だよりに「愛」をテーマにしたみことばを載せるなど、頻繁に呼びかけを行った。一年を通して意識させるためにも常に話題にあげていく必要がある。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	1. 教師間で常に情報を交換・相談し、相互に共通の理解を持って生徒指導にあたるようにした。 2. クラスによって違いを出さず学年全体として指導できるよう基準を決めた。	A	絶えず教師間で報告して話し合い、共通理解は充分にできた。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。	1. 「学習のとりくみ」を作成、配布。 2. 授業の準備や宿題、提出物など、学校生活にきちんと取り組めるようスケジュール帳を持たせた。 3. 朝礼前の5分を「学びのとき」として5教科の学習に取り組んだ。 4. 各考査前に学習範囲表を配布し、計画的な学習の取り組みを考えさせた。 5. 各考査後に成績不振の生徒に対して追試、補習を実施。また、希望者対象の学習講座も実施。 6. 全員受験の実力テストと希望者による実力テストを学期ごとに実施した。 7. 百人一首大会やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出した。	B	「学びのとき」の学習は、各自しっかりと取り組んでいた。成績不振者には、定期考査ごとに追試や補習を実施することができた。宿題や課題の提出を徹底させる工夫が必要であった。希望者実力テストの参加を継続させるよう、今後も呼びかけが大切。
	総合学習	中学1年生では以下の項目に取り組んだ。 1. マナーの学習 2. 進路の学習 3. 地域の学習	1. 礼儀作法やマナーを実践的に学び、学校生活や社会における人間関係に活かす。 2. 他者と協力して問題に取り組み、課題を達成する。 3. 自分が所属している社会の特色を学び、社会の一員としての自覚を持つ。	1. 礼儀作用について小笠原流礼法の講師の先生から実践的に学ぶとともに、公共の場や学校生活でのマナーやその大切さを、プリントを使って学習した。秋の校外学習では「和食マナー講習会」開催した。 2. 中学1年生である自分自身を見つめ、学校生活の目標を立てるとともに、これからの学校生活でどのような人間関係を築いていくかを考えた。また、将来挑戦してみたい活動や就きたい職業などについて考えるきっかけとして、夏休みには身近な人への「お仕事インタビュー」を行い、2学期に各クラスで発表した。3学期には「キッザニア甲子園」の英語で学ぶプログラムで、職業体験をした。 3. 自分たちが住み、通学している関西という地域について知るために、学校や学年の行事で関西の各地を訪れたことを振り返った。地域のお菓子について調べ、小笠原流礼法の授業で採用した。また社会科の授業との連携で、お正月についての調べ学習を通して関西の伝	A	1. 小笠原流礼法の講習では、慣れない礼儀作法に苦勞する姿が見られたが、皆、よく学んでいた。実践的に学ぶ機会を増やしたことは良かった。 2. 「お仕事インタビュー」とその発表、「キッザニア甲子園」での職業体験、など全てにおいて一生懸命取り組み、十分な成果をあげることができた。 3. 地域の学習をマナーの学習と結びつける試みをした。小さなことではあるが、目的を持って学ぶことができた。今後、中学1年生の総合学習にどのように組み込むか検討する必要がある。

				統や文化を知った。		
行事	<p>1. オリエンテーションキャンプ</p> <p>2. 夏のキャンプ</p> <p>3. 春の遠足 秋の校外学習 冬の校外学習</p>	<p>1. 松蔭を知り、松蔭生としての自覚を持たせ、友人や教師との交流をはかる。</p> <p>2. 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。</p> <p>3. 自然に親しみ、友人と交流を深める。校外学習では音楽鑑賞等を通じて教科で得た知識を深める。</p>	<p>1. 友だち作りと先生との交流を図るため各種ゲームを行い、また多くの先生方の協力の下、その機会をつくった。</p> <p>2. 集団での規則正しい生活とルールを守ることの大切さを伝えた。卒業生のキャンプリーダーのもと、友人と協力してことを成し遂げる充実感を知ってもらうよう、その機会を用意した。</p> <p>3. 春の遠足では摩耶山に登り、自然の中で友人とふれあう機会を持った。秋の校外学習では須磨海浜水族園で海の生き物を観察し、「和食マナー講習会」(須磨寿楼にて)では小笠原流礼法を実践的に学んだ。冬の校外学習では、キッザニア甲子園の英語で学ぶ職業体験、兵庫県芸術文化センター(クラシック音楽鑑賞)を訪れた。</p>	A	<p>1. 入学前の生徒の不安を和らげることができるのは良い点だが、一方で友人関係がうまく作れず不安感を持って入学式を迎える生徒もいた。生徒の様子を慎重に見守る体制の工夫の必要がある。</p> <p>2. リーダーやグループの仲間と協力をして、プログラムに積極的に取り組み、学校生活に生かすことのできるよい成果を得た。</p> <p>3. 目的を持って、主体的に学べるよう、教科との連携をさらに深めていく。</p>	

中学2年 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年の目標	学年の目標の理解と実践	「思いやる心 伝えることば〈至誠〉」 中一と同様の目標に〈至誠〉を加え、より良い人間関係の構築を目指す。	<p>1. 目標は教室と廊下に掲示。また、学年集会、朝終礼、HR等の機会や、学年だより等の配布物を有効に使い、折に触れ思い出させ、実践を促す。</p> <p>2. 友人関係上の問題が生じ、生徒たちだけで解決できない場合、担任を中心とした学年の教員も入って、解決を目指す。その際にも、思いやりや言葉の選び方の大切さについて考えさせる。</p>	B	2について。教員は日常的な働きかけ、見守りを続けた。が、思いやりの不足、言葉遣いの至らなさによって、生徒間で友人関係上の問題の起こることはまだまだ多い。根気強く指導を続けたい。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度当初に指導方針を明確にし、具体的な体制を確認する。	<p>1. どのような取り組みにも、学年の教員全員が一丸となって取り組む。</p> <p>2. 生徒の動向に常に気を配り、生徒と密に話す。</p> <p>3. 学年の教員の間で、常に生徒の情報を交換し合う。</p> <p>4. クラスによって指導に違いが出ないように、基準の確認を怠らない。</p> <p>5. 「基本的な良い生活習慣を身につけよう」と呼びかけ、スケジュール帳「スコラライト」や「学習計画ブック」の有効利用を促す。</p> <p>6. 学校と保護者、保護者間の連携を深める。気になることは連絡し合える体制を作る。</p>	1~4 A	1~4について。「学年の教員全員が一丸となって」という目標は、達せられた。 5について。生徒たちが学習その他の活動に積極的に取り組むために必要な、対人関係や精神面・身体面の安定という基盤を築くためにも「基本的な良い生活習慣の確立」と呼びかけ続けたが、確立できていない生徒は多い。「スコラライト」活用法を具体的に教授する必要も感じる。
	学習指導	中学2年生としての基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学2年で必要な学力を定着させ、学習意欲の継続・向上を促す。	<p>1. 朝礼前の5分を「学びのとき」とする。</p> <p>2. 「スコラライト」「学習計画ブック」活用を促し、学習習慣を確立させる。</p> <p>3. 定期考査後に、成績の芳しくない生徒に対しての「補い」を実施する。</p> <p>4. 長期休暇中に講習を行い、学習意欲の高い生徒にも対応する。</p> <p>5. 全員受験、希望者受験の実力考査を、学期に1回ずつ実施し、解説も行う。</p> <p>6. 百人一首カルタ大会やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出す。</p> <p>7. 面談等で、個々に応じたきめ細かい指導を行う。</p>	B	昨年度から継続して設定している「学びのとき」は、落ち着いて授業に入るためにも有効であった。が、授業をもっと集中して受けさせるための工夫、自宅学習の習慣をつけさせるための工夫が、さらに必要である。保護者の協力ももっと得たい。
	総合学習	「いのち」の学習	生や死について深く考えること、全ての命がかげがえのないものであることを認識すること、自分の進路・生き方を具体的に考えることを目標に、「いのち」の学習に取り組ませる。	<p>1. 1学期は「生・生まれる」、2学期は「死」、3学期は「生き方」というテーマを設定して、取り組む。</p> <p>2. 講演会、体験学習などを十分に活用し、理解させる。新しい取り組みとして「赤ちゃん先生」に来ていただき、赤ちゃんに触れ、ママ講師の話聞く。</p> <p>3. 感想文やレポート作成、発表などの課題に意欲的に取り組めるよう、促す。</p>	A	生徒たちは、「生」「死」「生き方」について、教員の指導のもと、現代の中学2年生としてたどり着いてほしいところまでは、何とか考えを深められたと思う。「赤ちゃん先生ようこそ」は、「いのち」や「いのち」を育む女性についての考察に有効だった。

学年行事	1.春の遠足 2.海洋キャンプ 3.秋の校外学習 4.聖歌コンクール	生徒の目標 1.自然のすばらしさ、自然の大切さを学ぶ。 2.協調性を育て、海洋スポーツの楽しさ、自然のすばらしさを知る。 3.歴史や文化のすばらしさに触れる。 4.聖歌に親しみ、協力して音楽を作り上げる楽しさを知る。	1.六甲山に登り、修法ヶ原、再度公園で昼食、諏訪神社で解散する。 2.3種類の海洋スポーツに親しむ。生活班ごとの食事や清掃の共同作業に取り組む。 3.立杭焼を作り、篠山を散策する。 4.今年度も聖歌コンクールを実施する。	A	生徒たちは、友人と楽しく過ごす体験をし、協力してひとつのことをやり遂げる難しさと喜びを、知ることができた。教員が、タイムリーに具体的な注意を与えられれば、数多くの生徒が指導に従うことができ、達成感も得られる。今後も、生徒たちに寄り添い、「具体的な」注意をすることを念頭に、根気強く指導を続けたい。
------	---	--	---	---	--

中学3年 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年目標	学年目標の徹底	1. 中1からの継続目標として、「よく学び 良く生きよ」「言葉、行動、愛、信頼、純粋さの点で人々の模範となちなさい」という目標設定し、常に心がけるようにさせる。	1. 標語を廊下の掲示板上および教室に掲示。 2. 行事や学年集会等で目標を示し、生徒への意識付けを行った。	B	1年を通してもっと呼びかけて意識させ、行動を促す環境づくりが必要である。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. 学校の規定を遵守させる。 2. 年度初めに方針の確認をする。 3. 個々の生徒の様子を丁寧に見守り、教師間で情報を共有する。	1. 今年も学年全体として指導できるような基準を決めた。 2. 朝礼や放課後、学年の教師間で常に情報を報告、共有し合って共通の理解を持ち、生徒指導にあたるよう心がけた。 3. 保護者との連絡を密にし、家庭の協力も得ながら指導にあたった。	A	随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通理解をふかめ、協力しながら指導に当たることが出来た。規定を遵守させるために根気強い指導をした。
	学習指導	学習意欲の向上と学力の定着	1. 教室移動を早くし、授業準備を確実に行う。なによりも授業を大切にすることを徹底指導する。 2. 高校進学を前にした、大切な準備期間であることを生徒自身に自覚させる。 3. 自宅学習習慣を身につけるよう基礎学力をつける。	1. 「学びのとき」の朝礼前にドリルなどの学習に取り組んだ。 2. 考査1週間前に考査対策として「質問教室」の時間を設けた。 3. 成績不振の生徒に対しての追試、補習を考査ごとに実施した。 4. 定期考査以外に5教科の「実力テスト」を、学期ごとに実施した。 5. 学外の生徒の学習程度を意識できるよう、学期ごとに「希望者実力テスト」を実施した。 6. 個人面談を数回実施することで、各自の学習状況を把握させ、目標を定めて学習に取り組めるよう指導を行った。 7. レシテーションコンテストを実施し、英語学習の意欲を引き出した。	B	日々の学びのときや考査前質問教室の呼びかけにより、学習の取り組みにある程度の成果はみられた。学習習慣の定着には差があり、積極的に学習する姿勢を身につけた生徒もいる一方で、まだまだ自主的に学ぶに至らない生徒も多い。その他の取り組みも生徒によって差があり、今後もさまざまなアプローチが必要である。手法・指導を工夫することで、それぞれの意欲を高め、学習習慣へとつなげていく必要がある。
	総合学習	平和学習	1. 戦争体験者へのインタビューや事前学習などを通して平和について考える。 2. 平和実現のために自分ができることを考える。 3. 高校進学を前に、進路についての知識を得て、これからの自分の生き方を考える	1. 1学期は、戦争に関する映画鑑賞や「戦争体験を聴く会」を実施。 2. 2学期は広島市の被爆体験者による「被爆者講演会」や、戦争・平和を考えるためのドキュメンタリーフィルム鑑賞を行った。 3. 広島平和学習として原爆資料館見学、碑めぐりを行った。 4. クラスごとに「平和について」自分が考えたことをまとめ、各クラスで発表した。3学期にはクラス代表が学年集会で発表した。 5. 学習を通して考えたことをまとめ、代表作を冊子にし、配布した。 6. 3学期に「進路ライブ」として、高校3年生の体験談を聴く会を持った。	A	生徒は真面目に、熱心に取り組んだ。特に講演会やドキュメンタリーフィルム鑑賞、広島訪問などを通して、被害者・加害者両面からの戦争、平和について自分なりの考えを持ち、「平和への提言」としてまとめ、しっかり発表することができた。中学1年から重点をおいて指導してきた「自分の意見を皆の前で発表する」ことで、プレゼンテーションの技能を養うよい機会となった。

学年行事	スキー修学旅行	1. 一生懸命取り組む心や協力・助け合いの精神を育てる。 2. 雄大な自然を体験する。 3. 寝食を共にし、友人の新しい一面を見つけ、思いやり・譲り合いの心を育てる。	1. 中学生生活の集大成として、自律の精神で団体生活を行うよう声掛けをした。 2. スキーでは、インストラクターの指導を厳守して、安全に、楽しく実習を行うように指導した。 3. 団体生活において、整理整頓やけじめを付けた生活ができるように指導した。	A	スキー訓練では殆ど見学者もなく、意欲的に取り組み、体調を崩したり、大きなケガがなかったのがよかった。 団体生活においても、ルールや時間を厳守し、整理整頓にも心がけ、プログラムを楽しむことができた。 事前不参加者が多かったのは残念であった。
	遠足（5月）	1. 自然に親しみ、友人と交流を深める。	1. 往路は、新神戸駅からトゥエンティークロスを通り、森林植物園に行った。帰路は、山田道を通り、神鉄・谷上駅で解散した。	B	天候もよく、楽しく過ごしていた。

高校1年 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年目標	学年目標の徹底	1. 中1から「人にやさしく」を、中3から加えた「はじめをつける」を継続目標として、常に心がけるようにさせる。	1. 標語を廊下の掲示板および教室に掲示。 2. 行事や学年集会等で目標を示し、生徒への意識付けを行った。	B	中3からの目標については、意識にはあるものの、さらに行動を促すべく声掛けなり環境づくりなりが必要である。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. 学校の規定を遵守させる。	1. 学期に1度の「クラス報告会」で、常に生徒の情報を共有し、共通理解のもと指導を行うようにした。 2. 保護者との連絡を密にして、家庭の協力を得ながら指導することを心がけた。	B	随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通理解をふかめ、協力しながら指導に当たることが出来た。規定を順守させるという面から言えば、まだまだ根気強い指導が必要である。
	学習指導	学習意欲の向上と学力の定着	1. 授業を大切にすることを徹底させる。 2. 自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。	1. 個人面談などで、各自の学習状況だけでなく、個人的な悩みや相談も根気強く話を聞き、それを把握し、改善点や新たな取り組みなどについて、指導した。 2. 英検取得を目的とした、土曜日午前中開講のECC英検対策講座に、英語特別クラスは2級取得者以外、全員参加した。(その他の生徒は、希望制) 3. 朝礼前の「学びのとき」で、各自の課題を見つけて取り組んだ。 4. 考査1週間前に考査対策として「放課後!!学習塾」を開塾。 5. 長期休暇中に英語・数学・国語の発展・標準講座を実施。また、勉強合宿を実施。 6. 成績不振者を対象に追試・補いの授業を実施。	B	生徒たちのモチベーションや必要とするタイミング・内容を常に確認、改善しながら進めていった。枠を作るだけでなく、面談等の機会にも呼びかけたこともあり、生徒たちは積極的に取り組んでいた。生徒の学習意欲を高める機会を増やすことができた。
	総合学習	進路学習	自分の適性を知り、将来の生き方を考え、自分の進むべき道を選択できるようにいろいろな方面からアプローチする。	1. 高2の選択説明会までの大学入試の説明などを行った。 2. 学部・学科ガイダンスを実施して、大学での研究内容を聞いた。 3. 夏休みにオープンキャンパスに参加することを課題にした。 4. 「生き方」について、様々な分野の人から話を聞いた。 5. 自分の意見を他の人に伝える練習のため、話し合う時間を持った。 6. 来年度の校内予備校募集の呼びかけの一つとして、3学期に教育講演会(校内予備校仲介業者・外部講師)を実施した。 7. 他学年が実施した校内入試別説明会に参加した。	A	自分の意見を意識化し、他者に伝える訓練が不足していると感じる。が、生徒は、真剣な態度で各授業に臨んでおり、それぞれに何らかの進路についての意識付けができた。

学年行事	春の遠足 校外学習（京都）	1. 芦屋ロックガーデンに行き、自然にふれ、体力をつける。 2. 京都の名所と大学をめぐり、歴史にふれ、進路への関心を高める。	1. 自然を感じ、友達と協力して登った。 2. 各クラス、グループに分かれて大学生ガイドに京都を案内してもらい、大学内で昼食をとり、見学をした。	A	春の遠足は、適切なコースであった。 京都市内の観光名所を回った。大学生と交流しながら、大学の雰囲気を感じることができた。
------	----------------------	--	---	---	---

高校2年 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標の「自分を大切にできる人であれ」を、常に心がけるようにさせる。また、高2の目標として、「まだいける！もっといける！」という目標も設定。	1. 学年の掲示板と各クラスの教室に掲示し、意識付けをはかった。 2. 高校2年生として、自覚を持ち、なすべきことをすぐに行動に移すように促した。	B	・それなりの意識づけはできたと思われる。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。年度初めに方針の確認を行い、各クラス共通の認識をもって対応をする。 機会をみつけて、保護者との連絡を密に取りあう。	1. 学年の教師の間で、常に生徒の情報を報告し、共通の理解と指導ができるようにした。 2. クラスによって指導に差が出ないように確認しあった。 3. 常に保護者との連絡を密にして、家庭の協力も得ながら指導した。	B	・職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にするとともに、月1回クラス報告会の時間をもち、共通認識を持って生徒にあたるよう心がけた。 ・遅刻の多い生徒への対応をもう少しこまめにすべきであったか。
	学習指導	目標を持たせ、学習意欲の向上と学力の定着	授業を大切にすることを徹底させる。 自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつけさせる。 生徒同士が切磋琢磨して学習する雰囲気を作る。 進路意識を持ちつつ学習に取り組めるようにする。	1. 個人面談などで、各自の進路希望や学習状況を把握し、改善点などの指導をした。 2. 4月から年間21回の校内予備校を実施した。(現代文・英語) 3. 夏休み・冬休みに進学補習を実施した。 4. 3泊4日の「勉強合宿」を8月頭に実施した。どれだけ勉強をやりきれるか、自主学習を中心とした。と同時に希望者に対して個人面談を行った。 5. 試験を意識する目的もあって、考査2週間前から「早勉」と称する朝の質問時間を設けた。また、1週間前からは放課後学習室を実施した。 6. 7月に希望者対象の記述式模試、2月に希望者対象のセンター試験早期対策模試を実施した。 7. 希望者を対象に「講義式寺子屋」を実施。「実力対策」や「基礎力をつける」など各回テーマを持って、放課後や早朝、土曜日に講義を行った。三学期には「入試対策講座」と名称を変え、入試を意識したものとした。 8. 裁判所ツアーや京都体験ツアーなどを企画、実施した。 9. 卒業生を講師に招いて、看護師を希望する生徒対象に説明会を実施。 10. 希望者対象に「夢ナビ」ツアーを実施。	A	・校内予備校の出欠を常に把握し、保護者へも出欠の確認を行ったので、ほとんど脱落者がなく終了できた。 ・年間の流れを意識した学習をするための機会を増やすことができた。 ・合宿においては休憩の取り入れ方をもう少し検討する必要があったかもしれない。

総合学習	東北学習 進路学習	進路を意識し、具体的に調べ、考えていくことができるようにする。 10月の修学旅行について積極的に学び準備して実行する。	1、「震災」をテーマに学習をすすめた。 講演会や修学旅行中での震災学習など、できるだけ直に話が聞けるような場面をつくり、またそこから感じたことなどをクラスの中でシェアする時間も持った。 2、夏休みに各自が興味を持ったテーマで震災について調べ、個人レポートを作成した。 3、修学旅行後に各自でホワイトブック（個人の旅行アルバム）を作成し、優秀作を展示した。 4、各学期に3回程度「進路ニュース」を発行し、進路に関する情報を定期的に触れられるように、またできるだけ高3の様子をリアルタイムで伝えられるようにした。 5、3学期に志望理由書対策講座と書き方ベーシック講座を実施。	A	・震災学習のプログラムとしてはよく順序を練ったものとなった。生徒たちの思考を促す効果があったと思われる。生徒は真面目に、熱心に取り組んでいた。 ・進路学習と両方に取り組むには時間数が不足している感がある。 ・ホワイトブックの展示とともに投票を行い、優秀者上位3名を表彰した。
学年行事	遠足（須磨山上遊園）		JR 須磨駅に集合し、須磨山上遊園まで歩き、昼食後、下山し解散した。	B	・歩く距離・行程の厳しさなどは適当であったが、目的地の選定には検討が必要だと思われる。

高校3年 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標として、「よく見る・よく聴く・よく考える」を、常に心がけるようにさせる。 高3の目標として、「そして自ら行動しよう」という副題も追加する。	1. 学年の掲示板と各クラスの教室に掲示し、意識付けをはかった。 2. 高校3年生として、自分の目標に向かってそれぞれが努力するよう促した。	A	意識づけはできたと思われる。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。 年度初めに方針の確認をする。	1. 学年の教師の間で、常に生徒の情報を報告し、共通の理解と指導ができるようにした。 2. クラスによって指導に差が出ないように確認しあった。 3. 常に保護者との連絡を密にして、家庭の協力も得ながら指導した。	B	朝の学年朝礼、水曜日昼の学年会議の他に、第2、第4火曜日の放課後に学年会議を設定し、情報を共有した。また、職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通理解を深めた。
	学習指導	学力の向上	大学入試に対応できる力をつけさせるためのプログラムを授業外にも用意し、個々の進路に応じて活用できるようにする。	1. 4月から年間20回の校内予備校（現代文・英語）を実施した。 2. 夏休み・冬休みにそれぞれ、夏期講習（約25講座）・冬期講習（5講座）を実施した。 3. 授業のない3学期にチャレプロの一環として進学補習（13講座）を実施した。 4. 今年度初の試みとして、平日の放課後にも補習・講座を実施した。	B	補習体制が学年団教員を中心としたものになったため、教科・内容が限定された。毎年安定したプログラムを提供するためには、他学年の教員や外部講師による補習や、Web授業などの利用も視野に入れる必要がある。
	進路指導	目標の設定、学力の向上と進路実現	自分の適性を知り、進路目標を定めて準備し努力させる。	1. 進路説明会など 4月には、年間のスケジュールを保護者と生徒に伝え、6・9月にも実施した。 9・12月にはセンター試験説明会を実施した。 2. 進路調査・面談 4・7・9月に実施した。その結果をもとに、複数回個人面談を実施し、それぞれの希望進路や学習状況を把握し、改善点などの指導をした。夏休みには保護者との三者面談を実施した。 3. 実力考査 4・6・9月の3回実施し、追加科目の試験も実施した。10月には希望者対象の実力考査を実施した。 4. 校内オープンキャンパス（大学等入試説明会） 高校内で、5・6月に松蔭大学の学科説明会と外部大学・短大・専門学校の入試説	B	3年間を通じた長期的な受験指導をする必要がある。

				<p>明会を実施した。</p> <p>5. 小論文指導 入試に小論文が必要な生徒の調査をし、学年の教員で分担を決め指導した。5月には希望者対象に学研の小論文模試を実施した。</p> <p>6. 指定校推薦決定者への指導 受験サプリの受講や10月の希望者対象実力考査の受験により、進学先での学習に必要な学力をつけるよう指導した。</p>		
総合学習	小論文の作成	自分でテーマをみつけ、2000字程度の小論文にまとめる。	<p>1. 5月に論文の書き方講座を実施。</p> <p>2. 図書館で情報検索ガイダンスを実施。</p> <p>3. プリントを用いて論文作成の基本を説明した。</p> <p>4. 下書き用にマス目入りのノートを使用した。</p> <p>5. 夏休みに自分のテーマを決定させ、夏休みの宿題で、小論文の構成を考えさせた。</p> <p>6. 2学期の総合の時間を5時間使って、小論文を書かせた。</p> <p>7. 12月に各クラス、優秀作のプレゼンテーションを講堂で行った。</p> <p>8. 各クラスの優秀作を5点ずつコピーして保存し、図書館で展示した。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを1学期中に決めさせる方がよい。 ・小論文の骨子を2学期初めには提出させ担任が指導すべき。 ・講堂での発表があることを始めに知らせた方がよい。 ・各自のテーマを展示して雰囲気作りをしてもよい。 	
学年行事	遠足（ハーブ園）	自然に触れ、友人との親交を深める。	新神戸で集合しハーブ園までの散策を行った。	A	季節がら毛虫が発生する可能性があるため、帽子や長袖の着用を徹底させる。	
	「チャレプロ」 ・各種プログラム ・Blue Earth Project	<ul style="list-style-type: none"> ・映画・清掃・スポーツ・教養講座などに参加し、自己を高める。 ・社会貢献を目的としたプログラムに基づき、体験学習をする。 	<p>1. 進路決定者はチャレプロと呼ばれる16種の各種プログラムの中から、最低4日間を選択し参加。進路未決定者はセンター試験をはじめ、私学の一般入試に向けて、11の講座より各自の進路に合わせた進学補習を行った。</p> <p>2. 指定校推薦決定者を中心とした進路決定者の中から希望者をつのり、「女子高生が社会を変える」をキャッチフレーズに、環境問題や東北応援の活動に取り組む「Blue Earth Project」を行った。今年のテーマは、「MOTTAINAI（もったいない）で未来を明るく」。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各種プログラムには、多くの生徒が真面目に取り組んでいた。 ・進学補習では、各自の進路に向けて、前向きな学習姿勢が見られた。 ・BEPでは、33人のメンバーが3つのプロジェクトチーム（E：エネルギー・F：フード・C：クローズ）に分かれ、環境問題へのさまざまな取り組みを企画・実行し、大きな成果を上げた。 	

生徒部 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒部	生活指導	服装規定の遵守	・正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	担任・学年を中心に指導する。その上、違反者の生徒を生徒部でも指導する。服装に関して、スカート丈の検査を高校生に実施した。頭髪については「髪の毛をくくるよう心がける」の指導を積極的に行った。礼拝等の集会時、学校行事等では必ず髪の毛をくくるよう指導徹底した。	B	服装・頭髪において日常的な指導はもちろんだが、定期的に一斉検査を実施する。頭髪においては、「髪の毛をくくるよう心がける」から「髪の毛はくくる」に校則変更を検討する。
		登下校のマナー	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルール及び車内のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。 ・あいさつの励行 	関係機関と連携し、登下校指導の実施、及び補導活動（列車補導も含む）を定期的実施する。昨年度よりも日数を増やし、生徒の意識付けに努めた。教員が積極的にあいさつするよう心がける。	B	これまでの指導を継続しながら、よりよい方法を検討していく。列車・バス補導など
		紛失・盗難の撲滅	・教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品（携帯電話や財布）は担任が預かる。クラブ活動における貴重品管理を各部徹底する。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	A	授業時間内だけでなく、クラブ等の放課後の貴重品の管理についてより指導を徹底する。

		各種講演会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン、携帯電話の正しい使い方を身につける。 ・インターネット、SNSの利用について正しい知識を身につける。 ・薬物に対する正しい知識を身につけ、自分自身の身を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ソーシャルメディア」、「薬物乱用」に関する講演会を年1回開きそれぞれの持つ危険性をうながす。 ・スマートフォン・携帯電話を朝礼で預ける。SNSなどの不適切な書込については、スクールカウンセラーを通じ、随時指導する。 	A	スマートフォン・携帯電話の使用方法については校内だけでなく、家庭でのルール作りをうながす。
美化指導	美化指導	校内美化・清掃の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・使用マナーの向上 ・毎日の清掃活動の徹底 ・各行事の役割分担と大掃除 ・校内美化に心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室・トイレの使用マナーを呼びかける。 ・毎日の掃除に拭き掃除を取り入れる。 ・文化祭、体育祭、バザーのとき、仕事を分担し美化に努める。体育祭後に大掃除をする。 ・掲示板のポスターを整理する。 	A	委員会で美化意識と自主性を促した。委員がクラスで呼びかけると、全体の生徒の意識が向上していくと信じている。特に毎日の掃除や、体育祭後の大掃除での各担任の影響力は大きい。
		環境資源の大切さを浸透させる	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの減量化 ・ゴミの分別 ・リサイクル活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミを出さないよう工夫を呼びかける。 ・どうしても出るゴミは分別する。燃えるゴミは小さくして捨て、段ボールや古紙などは倉庫へ運びリサイクルに役立てる。 ・教室のペットボトルは当番がゴミステーションへ運ぶ。美化委員は処理を行う。 	B	ゴミの分別とリサイクルは、ほとんどできるようになっているが、目を離すとしようとする生徒もいる。荷物整理と学用品を持ちかえる習慣付けは、かかわるいろいろな大人のこまめな日常の指導が必要である。
	生徒会指導	生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	エコキャップ運動・あいさつ運動など、近年取り組み始めた活動の継続。校外清掃活動の回数の増加。外部のボランティア活動への積極的な参加。	A	継続してキャップの洗浄、梱包発送がスムーズに行うことができた。一般の生徒に対するさらなる啓発のための工夫があると良い。
生徒会指導	生徒会指導	学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく	体育祭運営をよりスムーズに行う。競技やグループ分けについて検討する。グループ内での一体感を持たせる工夫をする。文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。	A	体育祭では騎馬戦で安全面を向上させるため方式を変更した。競技の楽しさとの両立を目指し、さらに検討をすすめる。文化祭ではステージ、装飾ともによくなっている。有志ステージの参加者が少なくなっているため募集等に工夫が必要。
		各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す	評議委員会等の連絡が円滑になるよう工夫する。ゴミの分別を確実に実行。生徒会関係冊子の充実に努める。	A	事前の連絡等が遅れる場合があるので、教員生徒両方にしっかりと連絡できる工夫をする。各部の記録、校正を徹底する。特に名前は入念なチェックを依頼する。
	安全教育	防火管理体制を整え自衛消防に努める	年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防火意識を高める。	生徒に連絡する訓練と抜き打ちでする訓練とを行い、それぞれの場合できちんと避難できるようにする（地震発生を想定した訓練を含める）。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。	A	スムーズに運動場へ避難できるようになっている。緊張感の維持に努めたい。火報器の扱いが複雑だが、有事の際は緊急放送を優先する旨、教職員に周知した。
安全教育	安全教育	校内危機対応意識を高め、不審者の対応に努める	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	中学1年生に防犯教室を実施する。また、教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。	A	交通面、不審者対策ともに、登下校時の安全意識啓発につとめた。
		全校生徒（特に自転車通学者）への安全の意識を高める	全校生徒を対象に年1回の講習を行う。	自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、外部講師に依頼し講習をおこなう。登下校時の交通安全意識を高める。	B	自転車通学者に限定せず、全校生徒に向けた交通安全指導をおこなった。
		応急処置の意識を高める	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	A	AED使用法、心肺蘇生法、アナフィラキシーショック対応エピペンの使用法などを講習会で確認した。
性教育	実態に応じた性教育の推進	性についての知識の浸透を図り、教科・学年と連携をとりながら、目標を掲げて取り組む。	中学2年生・3年生、高校2年生に性教育講演会を実施する。性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を理解する。	A	中学2年生・高校2年生ともに、マナ助産院・いのち語り隊に依頼した。講師の先生方もよく理解してくださり、生徒の様子からも、系統的な内容で適切であったと思われる。また、今年度は、神戸市が実施している中学3年生対象の医師によるデリバリー授業を実施した。性感染症やその予防法・妊娠について、非常にわかりやすい内容であった。来年度も継続して実施していく。さらに、中学1年生対象の講演会についても検討する。	

教務部 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
教 務 部	教育課程	教育課程の作成	1. 基礎的な学力を身につける。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、放課後の英語教室、定期考査後の補講・補習などによって、基礎学力の修得に力を入れる。	B	定期考査後の補い等、授業以外にも、基礎学力定着のためのさまざまな取組が充実している。引き続き授業改善に努めると共に、授業外の講座等についても改善を進める。
			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導をおこなう。	英語・数学などでグレード別クラスを編成する。また、選択科目を設置して進路に応じた指導をおこなう。土曜日には、中学1年生の英会話教室、英検対策講座、高校2、3年生対象校内予備校を実施。なお、英語特別クラス在籍生徒は、英検対策講座を必修とする。夏季休暇中に夏期講習期間を設定する。受験サプリを希望者で導入し、各生徒の学力に応じた家庭学習に活用してもらう。	B	長期休暇中の講習、日常的な放課後の講習、土曜日のECC・校内予備校等の取組が定着してきた。今後、各学力層に応じた講座の設定、内容の改善をはかる。受験サプリについては、次年度、学年・クラス単位での導入を一部で行い、生徒の自宅学習にいかせるようにする。
			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回実施する。また成績の定点観測を行い、課題を抽出する。さらに学習意欲の向上をはかるため、英語検定やTOEIC、漢字検定などを実施する。	A	実力考査や定点観測から把握できる生徒の状況に応じて、講習やその他の方法による対応を具体的に進めていく必要がある。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合的な学習の時間で自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開する。高2修学旅行、高1広島平和学習、高3チャレプロなど、校外でのさまざまな体験、事前学習をする。アクティブ・ラーニング等、能動的な学びについての研究を進めながら、具体的な実践に取り入れていく。	B	総合的な学習の時間の取組において、生徒が主体的な学びを実践できるように各学年で改善を加える。アクティブ・ラーニングについては引き続き研究を進めながら、具体的な実践を少しずつ促進していく。
研修	教員の研修	教員の資質を向上させるため適切な研修をおこなう。	授業公開期間を設定し教員研修を行う。アクティブ・ラーニングの研修会を学期に1回行う。教員に各自で学外の研修会に積極的に参加するように促す。	B	継続して授業公開期間を設定する。アクティブ・ラーニングを実践した研究授業や受験サプリを利用した新たな研修を設定する。外部研修会にも積極的に参加することを奨励する。	
国際理解教育	国際交流と国際理解	適切な国際交流行事をおこない、他国の歴史や文化に対する理解を深める。	1学期にセント・ピーターズスクールを受け入れ、ホームステイなどの異文化交流をする。オハイオ州立大学の生徒と交流をする。夏休み前半に中3・高1・高2を対象にニュージーランドのセント・ピーターズスクールへ短期語学留学を実施する。事前学習としてニュージーランドの歴史・文化学習を行う。夏休み後半に姉妹校である韓国・信明高校へ訪問し、授業参加、ホームステイなどを体験する予定であったがMERSの影響で派遣は中止となってしまった。3学期には信明高校の生徒を受け入れる。留学団体を通してドイツ人生徒を1年間受け入れる。神戸マリスタ国際学校との相互訪問を行い、外国人学校での授業やクラブ活動を体験する。	B	1学期は、夏休みのセント・ピーターズスクールと信明高校への派遣に向けて事前学習を行い、ニュージーランドと韓国の言葉や文化の理解をさらに深める。夏休みには、新たに交流に関する協定を結んだ韓国・聖明中学校との交流を行う。2学期に、タイの高校生の来校を予定している。3学期には信明高校の生徒を受け入れる。留学団体を通しての留学生受け入れや、マリスタ国際学校を始めとする他校との交流も引き続き行う。セント・ピーターズ校との交換留学について、話し合いをすすめる。	
芸術文化教育	芸術鑑賞行事	適切な芸術鑑賞行事を設定し、実施する。	2015年は演劇鑑賞会を行う。戦後70年であることより、関西芸術座に「戦争童話集」を上演して頂き、戦争の中に生きる人々の悲しさと平和の大切さを考えると同時にワークショップを通して演劇の楽しさも体験する。	A	時間に相当制約がある中でワークショップを企画したため、不十分なものになった。今後早い段階で計画をたて、ワークショップも後付け的にならないようにしなくてはならない。来年度は大阪パーカッションクラブによる演奏会を企画している。今後、生徒数減少のため、全学年が講堂に入る人数になった時に本校講堂を使用して実施することも考えていかななくてはならない。	

	学校行事	適切な学校行事の設定	さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	運動能力向上・自主性向上のため、学校行事として、体育祭・球技大会（年3回）・春の遠足（登山）・中2海洋キャンプ・中3スキー修学旅行・冬休みスキーキャンプ・中1キャンプ・高1広島平和学習・高2東北修学旅行等を実施する。その他の学校行事として、文化祭・バザー・秋の校外学習などを設定する。	A	行事がたくさんあり、それぞれの行事に生徒も教員もかなり力を入れている。年間の各種行事のバランスを検討することが、今後必要。
--	------	------------	--------------------------------------	--	---	---

総務部 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	住所管理	個人情報の管理	住所等個人情報を正確に把握する。	年度初めに各担任を通じて住所等の確認を行った。変更の書類が来た際は写しを取り、ストックする。書類は事務所の担当係が打ち込み、随時、総務部係がチェックした。	A	事務室から受け取った写しの整理に努める。
	校内施設	各教室の管理	教室の机・椅子の数の把握。	施設管理職員と連携し、不良品や修理の必要なものを適宜交換した。	B	教室の机などを定期的に点検して、早めに発注計画を立てる
		空き教室の有効利用	放課後校内で行われていることから(部活動・補修など)を掌握する。 長期休暇中の教室利用を調整する。	通常利用一覧表と、月ごとの「放課後教室利用一覧」を掲示し、各責任者に記入してもらった。 電子黒板が設置されている教室の空き状況一覧を作成し、授業で使用できるようにした。教室使用希望調査をおこない、調整した。	B	通常活動の一覧を作成し、記入を簡素化する。 教室配置の変更に合わせて、記入しやすい表を作成する。 長期休暇中の工事予定を勘案し、利用表を作成する。
		施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務所、施設管理職員、守衛の4部署に使用状況一覧を配布し、周知をはかった。	B	校内イントラネット及び会議録で各部署の利用予定を掌握する。
		不良箇所の補修	施設管理職員・事務部との連携を心がけて速やかに対処する。	できるだけ早く施設管理職員に連絡を取るようにした。必要な場合には業者に修理を依頼してもらった。	B	定期的に、校内の見回りをする。 修繕可能かどうかの見極めを適切にする。
	情報機器管理	情報機器管理	パソコンの設定・管理を随時おこなう。 無線Lan環境整備について検討する。	新職員室及び講師室のネットワークの管理をおこなった。 コンピュータ教室のPC入れ替えをおこなった。 無線Lan環境整備について検討した。	B	ネットワークのセキュリティ面で問題がないか、日常的に検証をおこなう。 数年先を見越した新たなシステムの計画を立てる。
	管理・美化	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。必要な備品の検討・購入	生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。	B	定期的に在庫の点検をして、不足のないようにするとともに、計画的にまとまった量を購入し、コストダウンを心がける。
		事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	B	紙類の無駄が出ないように工夫する。 その他、ゴミの削減に努める。
	視聴覚機材	視聴覚機材の管理・購入	備品を管理し、計画的に購入する。	電子黒板のメンテナンスをおこなった。 必要な時に機材がすぐ貸し出せるよう視聴覚室を整理した。	B	視聴覚室の整頓を徹底する。 学校ICT機材導入を検討する。
	広報	ホームページ(学校の広報)	分かりやすく、情報を探しやすい内容になるように努める。 定期的に更新する。	各学年や記録係との連携をすすめ、学校行事など内容をできるだけ早く更新した。 情報を見やすくすることを心がけた。 トップページのレイアウト等のリニューアルについて検討した。	B	少ない操作で見ることができるよう改善する。 長期間更新されていない内容を削除する。
ハンドブック(校内のルール・約束事の周知)		訂正ゼロを目指す。	各部署に原稿の作成(訂正)を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。	A	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうか、その都度確認する。	
学校報(一年間の学校の記録)		記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、一学期末の発行に努めた。	A	写真や資料を積極的に活用する。 各学年に積極的に働きかける。	
資料	写真などのデータの一元化、資料の整理・保存	学年で撮影した写真のデータを集約する。また、資料を計画的に保存する。	写真データ収集を各学年に依頼した。 VHSテープを業者に依頼し、DVDで見られるようにした。	A	古い資料の整理を進め、体系的な整理に努める。今後の資料の整理・保存についても検討する。	
総務・渉外	業者との連絡依頼を速やかにする。	依頼を受けた後できるだけ早く対応する。	業者と連絡を密に取るように努めた。依頼を受けた部署に対しては結果報告に努めた。	B	施設管理職員・事務部と協同し、仕事を円滑に進めるよう努める。	
	式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。	B	設営作業がスムーズに行くように式典前の施設利用に気を配る。	
	バザー	当日に至る準備、生徒・教職員に対する内容の周知をはかる。	リユース食器の利用、レンタル器具の活用、PTA や同窓会、ゴミ回収業者との打ち合わせを密にすること等を心がけた。 食品アレルギーに関して、特定原材料(7品目)の表示について、漏れがないように、チェ	B	食品アレルギーに関して、特定原材料(7品目)の表示漏れがないように、チェックに努める。 リユース食器などにかかる諸費用の抑制に努める。	

				ック体制を整えた。		ゴミそのものが少なくなるようなバザーの在り方を検討する。
		緊急連絡網の補い	休校などの緊急連絡が円滑に回るよう努める	各学期にテストメールを配信した。必要な場合、メールによる緊急連絡を実施し、未到達者に対しては、電話で連絡した。	B	配信エラーとなる者に対して、対処マニュアルを配布し、再設定をお願いした。

宗教部 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教部	日常礼拝の実施	お話当番表の作成	各学年等にお話の当番をスムーズに割り振る	副校長や当番学年への事前連絡を確認し、聖書朗読箇所を知らせる作業が、一応理解されてきている。	A	広くお話しをしていただくことを課題とし一層広報に力を入れたい。さまざまな良いお話もしていただいた。
		オルガニスト当番	オルガニストを手配し、出来るだけ早くに聖歌番号を決定する。	新しい聖歌集の曲になじんでもらうように、各行事に応じて生徒にも練習させていく。	A	オルガンレッスンの生徒も、オルガニスト当番にも参加させている。
		生徒の参加に関する指導等	礼拝をよい状態で受けることが出来るよう工夫する	礼拝前に黙想を行い、オルガンの奏楽にも助けられ礼拝を始める雰囲気を作っていくことが出来てきている。	A	早めに講堂へ集合させ静かに礼拝の準備をさせることができてきた。
	特別礼拝の実施	説教者選定	ふさわしい方を選定依頼	今年は戦後70年ということで、「平和を実現する」いろんな方面から説教者をお願いして有意義な話をしていただいた。	A	これからも多くの人脈を得られるよう努力を続ける。
		オルガニスト・聖歌隊手配	併せて聖歌の決定	各クラブやオルガニストの方からアプローチをしてきた。	A	各方面と連絡を密にとって、これからも継続したい。
		式次第作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り、式次第・式文を作成	各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。	A	よりいっそうの研鑽を続け、各方面へ広めて行きたい。
	宗教週間の諸行事实施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなる、そして宗教週間の主旨にあうプログラムを考える。	パンの販売などの企画を行い、図書館との協力やクリスマスの飾り作りなども行った。教会バザーの参加者も増えてきた。また、近隣の教会の牧師を招いてクラス講話を行った	B	情報宣伝活動をより積極的に行って生徒に訴えかけ、参加するようすすめたい。
	その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災記念礼拝、キャンドルサービスなどを行った。	B	普段の早朝礼拝などに、これからも積極的に生徒へ呼びかけて、広めていきたい。
	各奉仕活動の実施	特別養護老人ホームきしろ荘関連	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになる様プログラムを考える	年2回の喫茶サービス、クリスマスの飾り付けを企画した。関係クラブに協力を要請し、また一般生徒に呼びかけた。	A	積極的に有志生徒や茶道部の部員も参加してくれた。
体験学習の実施	真生乳児院関連	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになる様プログラムを考える	1, 2学期に年2期(10回)の育児体験を企画。広く応募を呼びかけて参加を促した。	A	今年度も多くの生徒が参加希望をし、各々の参加日も多くの参加があった。	
人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の諸問題を的確に生徒に伝えることが出来るように留意する	生徒向け人権映画として『白バラの祈り』を鑑賞した。礼拝において何度か解説とお話しを行い、生徒からも感想を集めた。	A	生徒からの感想も率直なもので好感触である。今後も啓発を続けて行きたい。	
	啓発文書の作成	大切なことをわかりやすく伝えていく。	人権映画鑑賞にあわせて映画の解説・見所などを掲載した『チャペルニュース』を発行。事前に礼拝でも問題提起する機会を持った。	A	型どおりではなく、いろいろな意見を持つよう準備でき良好。これからも継続したい。	
	教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことが出来るように考える	全員研修としての講演会は香川克先生に「生徒保護者にどう寄り添っていくか」というテーマでお話いただいた。	A	生徒と同時に教員の啓発活動も行っていくうえで問題に対する深い洞察力を養いたい。	
宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	キリスト教への興味関心を持たせることが出来るよう考える	神戸教区主催の広島平和礼拝に参加するプログラムを企画。教会の礼拝やバザーに参加、東日本大震災被災地へ、震災支援キャンプに引率する企画を続けた。聖ミカエル教会でオルガンレッスンをを行い、受講生も増えて充実してきている。	A	次年度も継続して行い、参加人数がもっと増えるように呼びかけたい。オルガンは生徒の奏楽チャンスも増加してきた。	

啓発文書の発行	青谷編集発行	キリスト教に関連する意見や思いを幅広く収集編集していく	例年の編集方針に従い、原稿依頼し、発刊した。宗教部の活動を広く教職員で共有できるよう務めていきたい。	B	概ねスムーズに原稿が集まった。広く一般教職員からも原稿を集めて活動を広めたい。
	各種文書発行	時に応じて様々な文章によって刊物を伝えていく	各行事の連絡を兼ねてチャペルニュースを年間計6回発行した。	A	行事の時だけでなく、毎月生徒に配布できるように定例化をめざしていきたい。
	聖句の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を読ませる	月1回の発行を目標に作成するはずであったが教室掲示することができなかった	B	今後も理解しやすい聖句を選び、生徒に浸透させたい。
関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切なサポートを考えていく	今年は東日本大震災やネパール大地震の被災地、広島の影響プロジェクト、韓国原爆被爆者支援、ワールドヴィジョンジャパンに献金した。また福島県への震災支援キャンプも行った。	A	必要とする所に献金、人的支援をこれからも続けて行っていきたい。特に東北へは継続支援が必要である。

進路指導部 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
進路指導部	進路	進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝える。	高校につながるように。中学段階での進路指導を継続した	B	総合の時間の柔軟性のある使い方が不可欠。
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図った。	B	各学年の進路指導部員を中心に、部との連携を持って、年間計画を進めている
		総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路に付いて早期から考える。	高1総合学習の時間をはじめ、進路学習を系統的に行った。	B	中3や高2の総合の時間も生かして、継続的な進路学習を行っている。	
	進学指導の充実	実力考査の定点観測を行い、進学指導に生かす。	実力考査における、同一学年の推移及び過去データとの比較を行い、定点観測結果を学校内で共有した。	B	定点観測の結果を積み重ねていくと共に、個々の指導の助けにつなげていくことが必要。	
		実力考査の計画的な実施	高校3学年の実力考査を、春の段階で進路指導部が、時期と業者を決めて学年に伝えることにした。	B	代々木ゼミナールの模試の撤退、ベネッセの実力実施日の早期実施期間の縮小で、定点観測に支障が起きかねない状況。	
	キャリア教育の充実	受験指導だけではなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	高1で、話し合ったり、共に考えたり、発表したりということに、取り組む機会を増やしたが、生徒達は前向きに取り組んでいた。	B	コミュニケーション能力は社会で特に求められる力なので、この種の学習機会を大切にしていきたい。	
職場体験をすれば勤労意欲の向上というような単純な考え方をせずに、創意工夫して、社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気づきの機会を与える。		Blue Earth Project は今年も充実した内容を実施し、生徒達は前向きに活動した。Blue Earth Project は、特色ある教育活動として、全国に広がっている。	B	社会的にも評価を得て、ノウハウや協力先を構築しているこの教育活動を、今後も継続していけるように、少しでも多くの教員に指導スキルの継承が重要。		

入試広報室 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入試広報	生徒募集	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	食堂利用、パンの販売、制服試着コーナーを実施。低学年の方には、図書館で在校生とのレクリエーションを企画した。	A	食物部考案のランチを販売した。
		学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9～11月に3回実施し、礼拝も含め本校の教育内容を的確に説明した。	B	3回すべてで制服試着コーナーを実施。2回目にスクールカウンセラーの講演会・図書館での活動、3回目にクッキング体験を実施した。
	関連事項	授業見学会	土曜日の学校説明会では授業見学ができないため、平日に授業見学を実施。	6月の平日、ご予約不要で実施。	B	ホームページなどで、授業見学会を実施していることをより知っていただく。

室	クリスマスの集い	冬のオープンスクールのイベントとして小学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を感じてもらおう。	小学生のみなさんに楽しんでもらうこと、が一番の目的。そのために、事故がないように注意した。	B	ご参加の人数が減っている。出演クラブを一部変更したが、まだまだ改善が必要。	
	入試結果報告会・学校説明会	6月の芦研模試会場で、もっと学校生活を知っていただくために説明会を実施した。	早い時期から松蔭に興味を持っていただき、オープンスクールにご参加いただけるようにする。	B	ご参加いただいた方がお知りになりたい内容を的確に説明する。	
	日曜日の学校説明会	ふだんの学校説明会と違って、より身近な内容の説明会にする。	学年主任・クラス担任の教員、卒業生(大学生)、保護者の方から松蔭についてより身近な話を聞いていただいた。会場もアットホームな雰囲気を出すために図書館にした。	A	内容については、他の説明会よりも好評。	
	ミニ説明会	遠方にお住まいの方に、松蔭のことを知っていただく、興味を持っていただく。少人数できめ細かく対応する。	10月に加古川・川西、11月に三田で実施。 通学方法や定期代など、より具体的な説明をした。	B	実施会場を検討する。	
	校内個別相談会・学校見学会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置、また展示コーナーや資料コーナーを設けた。ご希望の方には施設見学も行った。願書も受け付けた。	B	プレテストアドバイス会を実施するようになったので、この会のご参加の人数は減った。	
	学外のブース式説明会	主に保護者からの本校への質問に効果的に答え、受験意欲を喚起する。	可能な限り各会に参加し、保護者の本校に対する疑問・質問に対して的確な説明を心がけた。兵庫県の子供校による「女子教育セッション」を学校共催イベントとして企画・実施した。8月実施の私学展が私学フェスティバルとして、生徒出演のイベント、作品の展示を実施するようになった。	B	保護者と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」の見えることをより可能にしていく。多くの説明会で来場者数が減ってきている。	
	学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	塾主催等の会で本校の教育内容や特色が的確に明示される内容を企画した。 3月に「神戸東地区4校合同説明会(神戸海星・甲南女子・親和)」を実施した。 9月に塾主催の帰国子女対象の海外での説明会に参加(シンガポール、ジャカルタ)	A	特に他校との合同説明会では、本校の特色が際立つプレゼンテーションを目指し、誘引力を高める。	
	ジュニア・イングリッシュ・ディキャンプ	5年生、6年生に松蔭を知っていただく機会として今年から実施。	外部の先生方にご協力いただき、楽しみながら英語を学習。	A	ホームページで受付をしたが、少人数の募集だったため、すぐに締め切るようになってしまった。	
	個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。	B	スムーズな対応・説明を心がける。また担当者がどのような質問にも対応できるようにする。	
	プレテスト プレテストアドバイス会	入試本番へ向けての練習として、また、松蔭に興味をもつていただく機会として実施する。	アドバイス会でフォローすることにより、受験へ向けての不安な気持ちを和らげる。	B	2回目の実施。	
	高校入試説明会 推薦入学相談会	2年目となる高校推薦入試についての説明、また、松蔭を知っていただくための説明会。	制度を詳しく説明した。特に途中入学への不安について。	B	高校推薦入試を実施していることを、もっと広く知っていただく。	
	オープンハイスクール	中学生、その保護者の方に松蔭をより知っていただく機会として今年から実施。	在校生と話をする機会をより多く設け、直接、細かなご質問をしていただけるようにした。	B	より多くの方にご参加いただけるよう広報していきたい。	
	情報提供 関連事項	学校案内冊子など	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	本現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。	B	より多くの方に手にとって見ていただけるよう工夫していく。
		DVD など視聴覚物品	在校生の様子を的確に伝達する。	放送部に学校紹介DVDの作成を依頼した。	B	なるべく多くの方に配布する。
中学受験雑誌記事など		松蔭での教育活動を的確に伝達する。	記事原稿作成に協力した。	B	積極的な広報を行う。	

		新聞雑誌記事掲載など	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	教育活動の紹介手段の1つとして積極的に掲載依頼を行った。	A	積極的な広報を行う。
		新聞雑誌広告・看板	松蔭での教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	神戸市バスの六甲道の時刻表に加え、2系統のバス3台に広告を出した。	A	積極的な広報を行う。
		学校ホームページ	入試広報活動の一環として受験を検討する資料となるような内容を提供する。また入試広報イベントの告知・申し込みなどに活用する。	「入試ガイド」のページを中心に入試関連情報・イベント日程などを掲載した。	B	総務部ホームページ係とのよりきめ細かい協力が必要。より見やすくなるように工夫したい。
		ノベルティグッズ等	受験生が魅力を感じるグッズの提供をはかる。	文房具セット	B	松蔭の特色に合致したグッズで、小学生に喜んでもらえるものを検討する。
	学外教育機関への広報	塾訪問（全教員）	塾と関係を強化すると共に、本校教員が中学受験の現状を知る機会とする。	1名につき1～2塾を担当した。	B	今年限りで全教員による訪問は取りやめる。
		塾訪問（入試広報）	大手・中堅塾を中心に関係を深め、より多くの塾生に松蔭を知ってもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	B	引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。
		塾対象説明会	教育内容を説明し、通塾生、その保護者の方に松蔭を知っていただく。	9月に実施。 高校募集についても説明。	B	高校入試をどのように広めていくか。
		模擬試験会場	受験生・保護者の方に松蔭を知っていただく機会とする。	試験実施中に説明会を実施。	B	プレテストを実施するようになり、模試受験生が減ってきている。

読書運動委員会 学校自己評価 (A よくできた B できた C あまりできなかった D できなかった)

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
図書教育	読書指導	生徒が読書の習慣を身につけるよう、指導する。	全校読書運動（第46回） 読書感想文作成	<ul style="list-style-type: none"> 読書運動委員会にて今年度の全校テーマを決める。2015年度は「戦後70年」。 テーマにそって、各学年で具体的な課題を考案。 教員による推薦図書リスト、紹介文をプリントにして配布。 生徒たちは、プリントを参考に本を読み、夏休みの宿題として学年ごとに設定された課題に取り組んだ。 優秀作を図書館に展示。 国語科の取り組みとして、各学年で課題図書を決め、感想文を書かせた。今年度は、感想文の書き方について授業でも取り組んだ。授業後生徒たちは、400字程度の下書きを作成、提出し、授業担当者がアドバイスを書き込んで返却した。 感想文を校内読書感想文コンクール出品作として扱い、優秀作、佳作に選定された作品を表彰（11月アセンブリーで）。 各学年の最優秀作品は、第43回兵庫県私学読書感想文コンクールに出品。今年度は、中学：特選1作、入選1作、佳作1作。高校：入選2作、佳作1作。中学特選1作と、高校入選のうちの1作は、県コンクール応募作品にも選ばれた。 第61回青少年読書感想文兵庫県コンクールに、私学代表として出品された作品2作のうち、中学3年生の作品が、特選・兵庫県教育委員会賞（3位）に選出された。 第46回全校読書運動冊子（読書運動の報告、読書感想文コンクール優秀作等を記載）を作成、配布した。 	B	<p>今年度も、どの学年も、生徒が興味を持てるような課題を設定してくれた。充実した推薦図書リストも出来上がった。また、「戦後70年」という言葉は今年日本中で頻りに耳にしようから、生徒たちは課題に取り組みやすかったと思われる。</p> <p>例年どおり、教員の思いに添って、創意工夫をこらして積極的に課題に取り組んだ生徒が多く見られた。一方で、読書に興味を持っていない生徒もやはりいる。一人でも多くの生徒が読書好きになるように、さらに教職員の協力を求めたい。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な推薦図書の紹介等、読書指導の推進。 個人の嗜好に合わせた情報の発信の可能性も探りたい。 読書感想文、書評等の書き方の指導の充実。 読書運動冊子の活用法の検討。

		<p>ゴールドカード・プラチナカードの表彰</p> <p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> この1年間に50冊以上図書館の本を読んだ生徒にゴールドカードを、中学時にゴールドカードを取得して、さらに高校になって年間50冊以上図書館の本を読んだ生徒にプラチナカードを授与。1月アセンブリーで表彰(賞状とブックカバー)。 中3、高3の卒業時、生徒個人に貸出記録を渡した。 	A	<p>たくさんの本を読んだ生徒を表彰したり、自分が読んだ本を確認させたりすることで、読書に対する興味をかきたてたい。左の取り組みは、今後も継続。</p>
	<p>生徒が図書館を有効に利用できるようにする。</p> <p>生徒がメディアリテラシーを身につけられるようにする。</p>	<p>総合学習等の調べ学習の際の利用。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年総合学習等のテーマに応じた関連図書をコーナーにまとめて展示し、わかりやすくした。必要時には、司書が説明。 要請のあった教室へ、必要図書・関連図書の出前を行った。 図書や資料の見つけ方、調べ方、マナーも含めてプリントにし、配布した。積極的な活用に役立ててほしい。 自習時間の利用にも対応した。 	B	<p>各学年、各教科とのさらに密な連携を図り、要望に応えるための工夫をする。</p>
		<p>図書館利用のルールを理解、遵守。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新入生、転入生に対して、オリエンテーションを行った。 日常的な利用に際して、きめ細かい指導を行った。 	A	<p>時間不足気味なので、自習時間等、別の機会を見つけて補う。</p>
		<p>広報等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図書館情報誌「はと時計」を発行。本の紹介をはじめ、図書館クイズを掲載し、各種イベントの案内をした。 絵本ボランティア、しおり作り、カボチャのランタンづくり、クリスマリース作り、読書みくじ、小学生対象の兵庫県学校図書館スタンプラリー等の各種イベントや、読書会を企画し、実施した。今後も実施していく予定。 高3チャレンジプログラムの一環として、司書体験活動を実施した。 ブックリサイクルの実施。宗教週間の活動の一環として、不要になった本を持参してもらい、売却した利益を寄付。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「はと時計」のますますの充実を目指す。 積極的に楽しく活動できる機会を、さらに作りたい。
<p>選書</p>	<p>係による選書</p>	<p>生徒、教職員に必要とされる図書の充実。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係による定期的な選書を行った。 書店へ出向いての選書(全教職員、教育実習生対象)を企画、実施した。 リクエスト本について、随時審議した。 	A	<p>より多くの教職員からのリクエストが望まれる。さらに幅広い選書を目指す。</p>